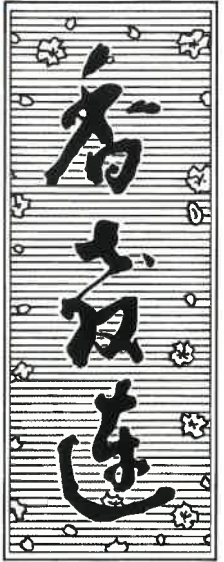


令和3年度当初予算要望活動を実施!



香川県教職員連盟機関誌
発行所: 香川県教職員連盟
発行所: 北村 顕吾

〒760-0004
高松市西宝町2丁目6番40号
香川県教育会館602号

TEL (087) 835-2721
AX (087) 835-2723

毎月10日発行 定価1部50円
(年間1,000円 送料とも)
会員の購読費は会費の中に含む

「令和の日本型学校教育」実現のために 教育環境の整備や改善を要望!

県知事へ



十月三十日(金) 一時五〇分より、香川県庁十一階知事公室第三応接室において、浜田恵造香川県知事に対して、文教予算の確保等に関する要望を行った。

香教連からは、北村顕吾委員長、高木俊彦副委員長、村松宏晃事務局長が出席した。

浜田恵造香川県知事からは、各要望内容に回答していただいた上で、「日頃から香川県の教育のために、尽力してくれていることに本当に感謝申し上げる。GIGA教育の構築の実現に向けて、国の動向を注視しながら、県として着実に推進していく。」との言葉をいただいた。

県議会へ



十月三十日(金) 一時一五分より、香川県議会議事堂二階議長応接室において、香川県小・中学校管理職員協議会と合同で香川県議会に対して、文教予算の確保等に関する要望を行った。

香教連からは、北村顕吾委員長、高木俊彦副委員長、村松宏晃事務局長が出席した。

香川県議会からは、西川昭吾議長、十河直副議長、山本悟史文教厚生委員長、五所野尾恭一香川県議会議員をはじめ、文教関係の県議会議員の方々や県関係機関の方々が出席した。会に先だって増田聖香督協会会長から要望書を、北村顕吾香教連委員長からは要望書と先生方へ御協力いただいた署名簿を、それぞれ西川県議会議長に手渡した。

西川昭吾香川県議長からは、それぞれの各要



香教連は、結成四十六年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力を持つ、県内最大の教職員団体です。

- 望内容に対して回答していただいた上で、「香川県の先生方は、日頃から子どもたちのために本当に熱意をもって職務に取り組んでいただいていること大変感謝申し上げる。新しい時代になり新しい教育の在り方が推進されてきているが、学校教育の本質はブレることなく教育活動を展開していただきたい。また、教職員の働き方改革においては、さらなる業務の削減と精選を行う必要がある、先生方が子どもたちとゆとりをもって向き合える時間が確保できるよう、また先生方の負担軽減に向けて、今後とも対策や体制づくりについてしっかり議論を進めていく。」との言葉をいただいた。
- 要望内容は、以下の通りである。
- 小学校においてより充実した教育活動を行うために、教科担任制の導入を見越し、専科教員を拡充すること
- 「GIGAスクール構想」の実現において、地域によって差異が発生することが無いよう、確実に環境整備を図ること
- 学校事務の負担を軽減し、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保するため、ICTによる業務の効率化を図るとともに、指導要録の電子化等を含め、県下で共通化された業務に取り組むことができるようにすることや、事務機器の充実も促進されるよう、早急に環境整備を図ること
- 新型コロナウイルス感染症対策及び新しい時代の初等中等教育に対応するために、学校の実情に応じたスクールサポートスタッフの配置を、継続して推進・拡充すること
- 中学校において、部活動指導体制の充実を推進し、部活動の質的向上を図るとともに、部活動を担当する教員の支援を行うために、部活動指導員の配置を継続して推進・拡充すること
- 国が来年度からの段階的な導入を目指している、小中学校の1学級三十人以下の少人数学級実現に向けて、必要な財政措置の検討を行うこと
- 熟練教員の指導技術の継承のために、指導教諭を県内全ての小中学校に任用し、若年教員への指導のみならず校内指導体制の充実を図ること
- 学校のマネジメント機能を強化するために、主幹教諭の多数配置とそれに伴う加配教員の適正配置を行うこと
- 児童生徒の心身の悩みに、きめ細やかに対応するために、養護教諭の複数配置について、学校の実態や規模に応じて適切な教職員配置を進めること
- 配慮が必要な児童生徒に、個に応じた指導が行える通級指導教室の充実を図られるよう、さらなる通級指導教室の増設や通級指導に専属する教員の増員を図ること
- 教職員がさらなる意欲をもって勤務できるとともに、香川に優秀な人材が確保できるよう、教職員給与等の増額を行うこと

温故知新

今回は「自分を変える、モデルを示す」です。

○自分を変えることで、相手を変える

「子どもが思うように変わらない」「学力を伸ばすことができない」「問題行動が減らない」「こういうときに、教師の人間性というものが露わになります。ある教師は、それをこまでも子どものせいになります。職員室でその子どもの変わらないことを愚言したり、自分がどれほど一生懸命にしているかを声高に話したりもします。しかし、残念ですが、そうした教師が子どもを変容させるということは少ないようです。

逆に、それとはまったく反対の教師がいます。そういう教師は、まず周りの教師に質問しに行きます。「物語の指導がどうしてもうまくいかないんです」「子どもの忘れ物が減らないときはどうすればいいんですか」「絵の具の塗り方は何をどう指導すればいいのですか」というように、先輩や同僚の教師に尋ねて回っているのです。そして、アドバイスをいただくことは、とにかく全て実際にやって確かめています。つまりは、まず自分の方法を疑い、改善しようとしているわけです。

自分の現在持っているやり方だけにこだわって、うまくいかなければ子どもをせいにしている教師は、盲腸の手術の技術しか持たない医師が、胃潰瘍の患者に対して「あなたはどいうよう盲腸じゃないんだ。盲腸なら治せたのに。」と言っているように滑稽です。盲腸なら治せたのに。」と言っている子どもを変えるために、自分を変えていく覚悟を持ちたいものです。

国語科の背中こそ、最高の「指導言」

○国語科の自己紹介スピーチの指導の際、次のような話をしたことがあります。「明日、スピーチをみんなの前で全員にしてみます。時間は三〇秒ジャスト。決められた時間にスピーチを取めることは、大切な勉強です。こう話すよ、子どもたちからは「えー!」と声が上がりました。そこで「先生がやってみます。」と言って、タイマーを三〇秒にセット。子どもたちは、ここで一斉に黙り込んでしまいました。「先生できるん。本当にするん?」という雰囲気になりました。

「私の名前は、北村顕吾です。趣味はスポーツをしたり見たりすることです。特に好きなスポーツは.....」話し始めると、子どもたちが緊張が走ります。私より緊張しているようでした。本当に三〇秒ジャストで話せるのかを固唾をのんで見守っているという感じでした。「..これから、一緒に勉強していきましょうね。」と励ましの言葉を言うと、タイマーがビ、ビ、ビと鳴りました。子どもたちの緊張がほぐれると同時に、拍手と「すごい。」という歓声が、「先生やからできるんやろ。」という声などが入り混じりました。

そこで、こう付け加えました。「実は先生、三十三回練習しました。十五回目まではなかなかうまく言葉が出てきませんでした。二十回目までは、ジャスト三〇秒になりませんでした。あの十回は確認のための練習です。大人の私でも三十三回かかりました。みんななら何回でできそうかな。」子どもたちは、自分にもできそうだなという表情になっていました。「先生より少ない練習回数で、うまくスピーチをするぞ!」と自分なりの目標を立てて取り組もうとする姿も見られました。

言葉で指示や指導することはもちろん必要です。ただ、できることであれば、実際にやってみせることが大事であり、より効果的であると実感しています。子どもたちの前でまず教師が努めてやってみせる、その姿こそ最高の「指導言」ではないでしょうか。(顕)